

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 乙第 2373 号

Evaluation of switching low-dose inhaled corticosteroid to pranlukast for step-down therapy in well-controlled patients with mild persistent asthma

(軽症持続型喘息の治療ステップダウンにおけるプランルカストの有用性に関する臨床的検討)

原田 園子 (はらだ そのこ)

博士 (医学)

論文内容の要旨

喘息治療ガイドラインでは喘息コントロールが良好な状況では、治療薬剤の減量すなわちステップダウンが推奨されている。しかしながら、治療ステップダウンに対する明確な方法は示されていない。本研究では喘息予防・管理ガイドラインにおける治療ステップ2からステップ1へのステップダウンに際して、吸入ステロイド薬(ICS)低用量からロイコトリエン受容体拮抗薬(LTRA)であるプランルカストへの治療薬変更の有用性を比較検討した。

低用量(FP換算 200 μ g/日)のICS単剤で3ヶ月以上症状の安定した軽症持続型喘息患者40名を対象に、ICS減量群(FP換算 100 μ g/日)(ICS群)とプランルカストへの変更群(プランルカスト群)に無作為割付をした。6ヶ月間追跡し、Asthma Control Test(ACT)スコア、スパイロメトリー、強制オシレーション法(FOT)、および呼気中一酸化窒素濃度(FeNO)等を解析した。

6ヶ月目における呼吸機能およびFOTに2群間での有意差はみられなかった。喘息がコントロールできた症例の割合は、プランルカスト群72.2%、ICS群90%であった。治療脱落した数は2群間に差はみられなかった。低用量ICSによりコントロール良好な軽症持続型喘息患者は少なくとも6ヶ月間は安全にプランルカストに変更できた。しかしながら、6ヶ月目においてプランルカスト群の27.8%はコントロールを維持できず、有意にFeNOが上昇した。

この研究により、低用量ICSによりコントロール良好な軽症持続型喘息患者は少なくとも6ヶ月間は安全にプランルカストに変更できることを示した。この研究は対象者数が少ないことに制限があるため、予備試験とみなすべきである。ステップダウン治療としてのLTRA単独投与の治療効果を調査する更なる研究が必要である。